

格安航空 発着の3割

成田空港、18年度目標

成田国際空港会社は24日、2018年度までの3力年の中期経営計画を発表した。旅客便発着回

数に占める格安航空会社（LCC）の割合を18年度に3割以上（15年度は推計25%程度）に引き上

げる目標を掲げた。LCCの専用ターミナルを持つており、急増するアジアなどの訪日客の利用拡大を目指す。

航空機の年間発着回数は27万回（15年度は推計23・5万回）に引き上げ

る計画だ。LCCを中心としたアジア便などの新規就航や増便、訪日客が国内移動するための国内線の拡充を図る。就航都市数は海外で130都市以上（3月時点107都市）、国内は20都市以上

（同17都市）の目標を立てた。

これらの取り組みにより、旅客数を4300万人（15年度は推計3790万人）に拡大する。3年間の設備投資は計1600億円の予定だ。

成田国際空港会社の夏目誠社長は、24日の記者会見で、中国や韓国などアジアの空港の能力拡張計画に触れながら「空港間の競争が激しくなるが、アジアでトップクラスの拠点空港を維持していく」と意気込みを語った。